

NPO 法人西表島エコツーリズム協会

所在地 沖縄県八重山郡竹富町字上原 870-277 (NPO 法人西表島エコツーリズム協会)



（アドバイザー派遣申請の背景）

地域が協働するエコツーリズム推進体制づくりへ

観光が主産業の一つである西表島では、近年、沖縄ブームの沈静化、円高による観光客の海外流出、他離島との航空運賃の格差、などの複数の要因が重なり観光客数の減少が著しい。対比して石垣島からの日帰りによるエコツアー参加者の割合は増加傾向にあり、一部の観光スポット（観光資源）への、集中した環境負荷が問題となっている。

滞在型観光の促進や天候に左右されないエコツアーの開拓は、予めから提言されてきているが、従来の形態からなかなか抜け出せず、商品化に結びついていないのが現状である。

こうした「行き詰まり」とも言える状況に直面している今こそ、地域が協働して、潜在する島の魅力（＝観光資源）を、再発見・再発掘し、新たなエコツアーや滞在型観光プラン、その受け入れや発信の仕組みを作っていくことが必要であり、同時にその中での「西表島エコツーリズム協会」の役割を再確認することも重要であると考えられる。

今回のエコツーリズム推進アドバイザー派遣を利用させていただき、他地域での実践例や専門家のアドバイスを基に、従来の西表島のエコツーリズムへの取組とエコツーリズム協会の意義の見直し、観光資源の再発掘とその有効な活用、地域が協働するエコツーリズム推進体制づくりを行っていききたい。

エコツーリズムに取り組む目的	
従来の観光から脱して、新しい地域の魅力づくりを行うため	○
「自然とのふれあい」を志向する旅行者のニーズに対応するため	
地域の活性化に貢献するため	○
地域資源の保全に対して「来訪者」の意識を高めるため	
地域資源の保全に対して「地元住民」の意識を高めるため	○
地域の将来にわたって「自然環境や文化の保全」が特に重要な点だと考えているため	○
現在悪化しつつある地域の自然環境や文化の保全に役立てるため	
(その他)	

エコツーリズムの対象となる自然観光資源	
動植物	○
動植物の生息地・生育地	○
地形・地質	○
自然環境と密接な関連を有する風俗習慣、その他の伝統的な生活文化に係る観光資源	○
これから地域資源の洗い出しをするため、地域資源の把握ができていない	
(主な自然観光資源) マングローブ等の亜熱帯性植物、亜熱帯林と滝などの地形、稀少生物、サンゴ礁域とそこに生息する多種多様の海洋生物、染織物・民具などの生活文化、舞踊・民謡などの民俗芸能、稲作とそれに関連する風俗習慣、祭事	

現在取り組んでいる・取り組もうとしているエコツアーの種類	取組中	検討中
原生的な自然におけるエコツアー	○	
地域に特有な野生生物とのふれあい	○	
自然の営みにふれる観察会への参加	○	
地球科学的な視点から自然や暮らしとの関わりを学ぶ活動		○
環境教育を主目的とした活動	○	
農林業などの体験を通じて自然への理解を深める活動		○
自然や文化に関する解説を受けながら地域を巡る活動		○
地域の生活や文化を体験する活動		○
環境保全のための貢献活動		○
自然の中でゆったりとした時を過ごしながら自然の恵みを体感する活動		○
(現在取り組んでいること)		
(取組を検討していること)		

アドバイザー派遣の概要

●日時

平成 24 年 3 月 6 日（火）～9 日（金）

●場所

沖縄県八重山郡竹富町（西表島）

- ・ 視察場所：島内全域

〔仲間川、由布島、環境省野生生物保護センター（見学）、マーレ川カヌー置場、星砂海岸、浦内川（遊覧船乗船）、干立集落、祖納集落と御嶽、紅露工房、青烽窯、エコツーリズムセンター（見学）、はてるま、八重山ポタル観察〕

- ・ アドバイス実施会場：浦内公民館

●エコツーリズム推進アドバイザー

有限会社オズ 代表取締役 江崎 貴久 氏

●参加者

西表島エコツーリズム協会、西表島カヌー組合、環境省西表自然保護管事務所、竹富町、宿泊施設関係者、地元住民 他

●視察およびアドバイスのスケジュール・方法

（1 日目、2 日目）

- ・ 西部地区を中心に島内全域を集落毎に視察（集落毎に大きく性質が異なるという背景を解説）
- ・ マングローブ林やサンゴ礁海岸、ホテルなどの自然資源の視察
- ・ 伝統的染織工房や陶芸工房、島の食などの文化的資源の視察
- ・ 環境省自然保護官、エコツーリズム協会会長、それぞれの目線からの西表島のエコツーリズムの現状と問題点の解説
- ・ オーバーユースが懸念されているピナイサーラの滝の解説とマーレ川上流カヌー置場の視察

（3 日目）

第 1 部：講演形式

「地域が「協働」して西表島の魅力を発揮する仕組みづくり～地域を育てる連携・循環～」と題してお話しいただいた。主に江崎氏の三重県鳥羽市でのこれまでの活動・経験の紹介を通して、「観光」の基本的な概念、住民や多様な主体の観光への参加の形、本来の「おもてなし」の意味、循環型社会の仕組みづくり（＝エコツーリズム）などについて、あらゆる業種の参加者にわかりやすいように解説いただいた。

第2部：ワークショップ形式

第1部の講演で学んだことを基に、実際に西表島で私たちが何を大切にし、何を伝えていきたいのか、そして未来の島のビジョンをグループワークの形式で考え、改めて共通の認識を得た。その後、個々の業の中で大切なもの、そしてその価値を伝える工夫、その実現のためにどのような手法で地域協働や、連携体制を取っていくことが可能かということを具体的に検討し、それらに対してアドバイスをいただいた。

(アドバイザー派遣を実施して参考になったこと、感想)

アドバイザー派遣の効果

●参加者や関係者に与えた効果

- ・ エコツアーリズム先進地域と言われる西表島で、これまでエコツアーリズム推進に関わってきた人にも、そうでない人にもエコツアーリズムの意味、定義を改めて認識してもらう機会となった。参加者の中にはエコツアーリズムというものを初めて理解できたという声も聞かれた。
- ・ 今回の参加者には昨年発足した「西表女将の会」のメンバーが多く含まれていたが、活動初期の段階でこの事業にできたことにより、今後の活動内容の具体化や、これまであまり交流がなかった他の観光事業者とのつながり作りが進むきっかけとなった。また、江崎氏の「おもてなしの心」に触れ、それぞれに見直す機会となったようだ。
- ・ あらゆる主体の参加者にとって、観光への住民や多様な主体の参加や連携体制について、事例を紹介いただけたことにより、具体案へと結びつくイメージを作るきっかけとなったようだ。
- ・ 自分たちの大切にしたい資源とその伝え方、そして未来のビジョンまで、ワークショップでスムーズに導き出された手法が、今後様々な場面で目的やビジョンを明確にするアプローチ方法として応用ができる。
- ・ これまでの個々の活動が連携・協働につながっていくための手法を、形の上でもマインド面でも学ぶことができた。
- ・ 保全・保護活動が主体になっていたエコツアーリズム協会にとって、今一度「地域のために」を念頭に置いて、理事や会員が活動方針や活動内容を見直す機会となった。

●今後の期待される効果

- ・ 西表女将の会によって全体的な宿泊施設の質の向上や、他主体と連携を図り、より地域住民が参加できる体制が構築されることが期待できる。
- ・ 地域住民や地域の多様な主体と連携して、その多くが参加できる形の、新たな体験プログラムやエコツアーの開発、そしてその受け入れの体制が整えられることが期待される。(西表島エコツアーリズム協会がその役割として周囲から期待されていると感じるので、それに応えられるよう活動内容等の見直しを行っていきたい)。
- ・ より多くの島民が共通のビジョンを持ち、共有することによって、ルールの見直しやオーバーユースされている資源の救出のために、具体的な行動を起こすことが期待される。そしてその行動が行政をも動かし得るものとなり、行政と共に循環型社会の中での観光を潤していくために活動していけることが理想とする形である。

(アドバイザー派遣を実施して参考になったこと、感想)

アドバイザー派遣を実施して (地域からの声)

●参考となった事項

- ・ 江崎氏が行ってきた活動・経験をご本人から聞いたことは、非常に力(説得力、自信、愛情などすべて含んだ力)があり、参加した誰もが納得する内容で参考になった。特に住民の様々な形での観光やエコツーリズムへの参加は、学ぶべきところが多く、同時に「西表島でもできないはずがない」という気持ちと実現に向けたイメージを参加者にもたせたことは非常に大きな収穫であった。
- ・ 共通の目的、ビジョンを明確にすることの重要性とそれらを導き出す手法。
- ・ 本来の「おもてなし」の心。



●その他感想

西表島のエコツーリズムの転機ともいえるべき時に、江崎氏に来ていただいたことは、関係者や参加者らに一歩前に進む力を与えてくれたように感じた。江崎氏の終始おもいやり溢れ、そして非常にわかりやすいお話に参加者の誰もが何かを感じ取ったようである。講演やワークショップといった類のものに初めて参加されたという方もおられたが、そういった方々に「おもしろかった」と言っただけたり、エコツーリズムに関心を持っただけたりしたことも、「きくさん」の魅力ゆえであると思う。

実施後の参加者のアンケートでは今後もこのような事業の開催を望む声が多数あった。西表島エコツーリズム協会では、今後も地域住民の声をよく聞き、共に「人と自然との共生」を目指して、歩んでいきたいと思う。

(エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス)

江崎アドバイザーからの地域へのアドバイス

来年度に向けて、西表島エコツーリズム協会が盛り上がっている今を機に、会員だけでなく、これまで参加していない方々が参加するための取組を進めていただくことが効果的であると思われます。そのために、大きく分けて、3つのカテゴリ別のアドバイスをを行いました。



●目的・ビジョンの明確化

ここまで発展してきた西表島のエコツーリズムの原点から、今の西表島のエコツーリズムを見直し、世代を超えても100年後の西表島に向け、ぶれない目的とビジョンを明確にする必要があります。

●宿泊・ツアー共通のおもてなし

①本当のおもてなしは、地域にもお客様にも責任を持って喜んでもらうことですので、地域住民として、その業のプロとして、コーディネートできるバランス感覚を養ってください。

②おもてなしも、ルールも、形を受け継ぐものではありません。その心を受け継ぎ時代に合わせ、未来につながる形に表現して、地域もお客様も満足につなげてください。環境が変化すれば、ルールも見直す必要性があります。

③地域が栄え続けるために役立つ観光として、その目的に沿ったターゲットを明確にし、共有し、協働しておもてなしする地域の一元管理の仕組みを作っていくと、効果的で効率的になると思われます。

●総合ビジョンの中の観光について

①多様な人々が関わる必要性を創造する

間口の広い取り組みとして現在、継続発展している文化祭の取組は、広くどんな方にも参加をしていただける絶好の機会となっているのは、素晴らしいと思います。材料や製作方法にこだわった島の人々の郷土料理や工芸品、オリジナルの品々の紹介から、芸能発表、飲食の容器や運営方法に至るまで、西表島の自然や文化を大切にすることを表現してきた工夫は一貫性があり、その時間を通して訪れた人々は確実に西表島のエコツーリズムから「西表島の自然や文化を大切に受け継ぐ」というようなメッセージを受け取ることができていると思います。

今回のアドバイザー派遣を通して、現地でのヒアリングから感じたことは、今活動しておられる皆さんが「どんな人々にも参加してほしい」という気持ちとは別に、「こんな人に参加してほしい」という島内でも特にターゲットとする人々、言い換えれば、特に今必要とする種の人々がいるということでした。

こうした人々に参加してもらうためには、まず、参加していただきたい対象となぜ参加してほしいのか、その人々がなぜ必要なのかを明確にしておく、それを共有した会員みんなが新たな人々

を必要とする思いが、具体的な行動につながりやすくなります。また、西表島のエコツーリズムはその人々の産業や地域の課題にとって、どのように役立つことができるかを事前に考えておくと全体的な事業の継続化と効率化にもつながります。

その方々が参加できない理由を明確にすることがあげられます。その上で、どうすればそのハードルがなくなるのかを工夫することが、同時に信頼関係も構築できるモノと思われれます。個々の自主事業（職業や商い）を生かした参加方法と地域のボランティア活動への参加など、形態を多様化させることも、その一つです。また、参加の際のパブリックでの機能も必要と思われれます。ワーキングの時にも明らかになったように、「自分たちの能力や事業を活かして活動につなげたいが、窓口・受け皿としてまとめ役をしてくれるところがあれば…」と感じているやる気のある島民がいることは確かです。西表島エコツーリズム協会からも、協会でその役割は可能との積極的な発言をいただきました。ぜひ、これを機に、そのような仕組みを作っていただければ、前述した宿泊とツアーの一元管理の仕組みとも相乗効果をもたらすことができるはずです。

②観光基本計画、エコツーリズム全体構想等、観光立町宣言を具体化するアクションを行政と協力して実施していくことも必要と思われれます。島にはパワフルな女性が多く、これまで必要と思われれることは自主的に自己資金で実現していく推進力となっています。残念ながら、身近な地域の自治体はその勢いを活用したり、サポートしたりすればよいのかが明確ではないまたは、模索段階にも入っていないという状況で、各担当者レベルの判断でしかない実情があります。そのためには、島民だけではなく外からのアプローチも効果的に行っていく必要性があります。特に、町民に対して行政が施策を打ち出す大義が見いだせ、観光振興のための観光ではなく、住民の将来にわたる暮らしのための手法としての観光につながるよう外部者ができる役割を県行政や国を含めて考えていくことが必要です。

●最後に

地域全体での取組を効果的にするためには、地域の人々だけではなく、それを支える仕組みも必要であると感じました。たとえば、自然を利用して収益を得ているカヌー事業者のフィールドの使い方に問題が出てきている。国有林内に乱雑にカヌーが置かれ、それによって国有地の占有範囲が広がっている事例も目にしました。おそらく、ここまで無法に発展してしまうと自主規制も言い出せない状況にあるのではないかと思われれます。

全国的にもカヌー事業者と地元との問題を最近よく耳にしますが、そうした業界団体が地域やフィールドに対して、事業者指導をするような取組も必要となっているのではないかと思います。ただ、カヌーインストラクターや事業者は資格や許認可が要らないため、全国のカヌー事業者がこのような全国組織と関わりを持っていないければならない必要性がありません。実際、西表島のカヌー事業者は、日本レクリエーションカヌー協会（JRCA）や公益社団法人 日本カヌー連盟（JAPAN CANOE FEDERATION）などの全国組織の資格受講者も少ないようです。しかし、今後の地域トラブルを防ぎ自然や文化の破壊を防ぐため、地域をフィールドにする業界団体も、自然保護や社会貢献事業だけでなく、日常業務での地域への配慮や連携について啓発活動への協力が必要です。

外部から関わる人々もその役割をもって、西表島に関わっておられるのだと思います。外部の私たちができることも検討していきたいと思っています。島の自然も文化も大切に作るチームは島の人だけではなく、旅人も、私たちもみんなです。これからも、ともに頑張っていきましょう。